

1年間を振り返って

第64代理事長 鈴森 賢史



2014年度はスローガンを「フルスロットル!～挑む勇気が道を拓く～」と掲げ活動をしてまいりました。会員減少、不安定な経済状況、公益目的事業のあり方など、多くの困難に直面している状況であっても、私たちは輝ける存在でなければなりません。その唯一の道は、メンバー一人ひとりが大きな成長を遂げてまちに活力を与え、最強のひとりづくり団体として存在感を示すことであると、1年間を振り返って改めて確信しています。

さて、2014年度の公益目的事業は、教育を最大の課題として、他団体と連携協力してそれぞれの強みを活かしながら事業を実施してまいりました。「学ぶ!撮る!考える!親子チャレンジオリエンタリング」では、最上稲荷周辺の歴史に触れるチェックポイントを親子でめぐりました。晴天の中、親子で楽しみながら吉備路周辺を歩き、身近にある歴史に興味をもつきっかけとなりました。また、「いつやるか?今でしょ!教え「育つ」教育を考える ～子どもも大人も明日から役立つモチベーションアップ術～」は、予備校講師の林修先生をお招きして勉強や子育て論などについて講演していただきました。参加者は子どもから年配の方まで幅広く、会場は熱気にあふれていました。教育からモチベーションの保ち方まで様々な話題に引き込まれ、楽しい中にも学びや気づきのある有意義な講演となりました。そして「子供が主役!キッズビジネスパークin岡山」では、県内企業、団体、行政、学校に協力をいただいて子どもたちの職業体験事業を行いました。子どもたちは生き活きと笑顔で仕事をしながら、働くことの喜びや大変さを実感することができました。

第21回うらじゃは、二日間とも雨が降る中を、踊り子が少しでもいいコンディションで踊ることができるよう、スタッフはずぶぬれになりながら走り回り、最後まで大きな事故もなく無事に終わることができました。年を追うごとに岡山といえばうらじゃ、という評価も高まり、市民になくてはならないまつりへと成長してきています。岡山青年会議所にとっても、うらじゃを通して私たち自身が成長できる貴重な場ともなりました。心残りは、第22回うらじゃを桃太郎大通りで実施する案をまだ実現できていないことです。さらなる活性化策の一つとして、粘り強く取り組むことが必要と考えています。

他にも多くの公益目的事業、そして対内的な事業も実施してまいりましたが、岡山青年会議所の事業は、私たち自身がまちづくりに志を持って行動できる人材となるために行うものです。成長したメンバーが真に活躍するのはこれからです。郷土岡山発展の原動力となるよう、市民のニーズをしっかりと見極め、問題の本質を解決できるような運動につながるものと期待しています。

この一年、ただただメンバー一人ひとりの成長を願って取り組んでまいりました。岡山青年会議所は志を同じくする者が切磋琢磨して自分を磨く「学び舎」で、より強く生きる力を身に着ける最高の道場です。大切なのは、何を学んだかではなく、どうやって学んだか、誰と学んだか。昨年度に引き続き特別会員の皆様のご協力もいただき、前期10名後期10名の新会員も加わりまして、新しい風が吹いてきています。この学び舎で多くの仲間とともに高い壁に挑みながら全力で活動し、将来岡山で活躍できる人材になってくれるものと期待しています。

一方で会員の拡大については、30名という計画に届かず大きな責任を感じています。岡山青年会議所の魅力を十分に示すこと、あるいは多くの候補者に会って、相手の心に響くまで語る事ができなかった、という点については真摯に受け止め、今年の経験を必ず次年度へと引き継いでまいります。

公益社団法人格を取得して2年が過ぎました。環境も考え方も常に時代とともに変化中、私たちも変わらなければなりません。前年から受け継いだ課題については、いくつか実行へと移すことができました。しかしながら、男女の区別なく、仕事、家族など様々な事情があっても楽しんで参加でき、そしてやればやるほど成長につながる懐の深い団体となるように、さらなる改革も必要です。これからますます岡山に必要不可欠な団体として質量ともに存在感を高めるためには、変化を恐れず、勇気を持って挑戦し続けることしかありません。今のメンバーであれば、必ず実現できるはずで。

最後になりますが、いつも応援をいただきました特別会員の皆様はじめ、関係各位におかれましては、大変大きなご支援ご協力をいただき本当にありがとうございました。2015年に65周年を迎える岡山青年会議所に対しまして、さらなるご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

副理事長 兼 会員研修委員会 委員長 久松 朋史



岡山青年会議所が大切にしている「ひとづくり」を担う会員研修委員会の委員長をさせていただくにあたり、2014年は、目的は変えず、しかし手法は変革の時代に相応しい形に進化させる必要があると理事長所信にも触れられており、予定段階から研修手法について検討を重ねて参りました。研修プログラムの大部分は従来のものを踏襲しましたが、目的と意味を明確にして集中し取り組むこと、団結して困難に立ち向かうことによる一体感や本音で話せる新会員同士の友情の醸成について、手法は従来とは違うスタンスで行いました。研修期間を通じて、岡山青年会議所のこと、礼儀やマナー、事業を通じて組織の動かし方や他を敬うことの大切さを知り、様々な場面で「与えること」のできる人間として進歩できたと確信しています。又、スタッフにも非常に恵まれ、会員研修委員会を通して真の仲間として共に成長することができたと感じています。前期10名、後期10名の新会員の成長を今後も見守りながら自身の青年会議所活動にも邁進したいと考えています。特別会員の皆様、LOMメンバーの皆様にはこころより感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。

協創力確立委員会 理事委員長 曳木 実



協創力確立委員会では理事長からご指示いただいた職務分掌にもつき岡山青年会議所が公益団体として、まちづくり事業を通じ行政、企業・団体との協働できる関係性の構築や、市民へ教育問題に対して気付きや学びができる機会を提供していくべく活動を行ってまいりました。5月例会(市民公開例会)では杉山副委員長を中心に「今でしょ!」の林修氏の講演会が実施され、過去最高の参加員数を動員することが出来ました。副委員長が担当した「子供が主役!キッズビジネスパークin岡山」は多くの企業・団体と協働することができました。また、想像を上回る応募者数や当日参加していただいた方々が真剣に取り組んでくださる姿勢に岡山青年会議所が行おうとしていることの重要性を感じる事が出来ました。これらの2つの事業は、実施に際して理事執行部を始めとする各委員会メンバーの皆様が一致団結して活躍していただいたおかげで、無事に終わることが出来たものと思います。もう一つ、11月に岡山市初の国際会議として開催されたESDに関するユネスコ世界会議に向け岡山市ESD世界会議推進局との協議を繰り返し行いました。当日のサイドイベントを担当するに至るまでのアイデアや関わり方を模索する中で、行政の皆さんとの連携が充実していくことができました。最後に委員長の不甲斐ない委員会運営を持てる力を出し切って支えていただいた2名の副委員長、芦田委員、矢鍋委員、河内委員、杭田委員、筒井委員、そして後藤幹事に1年間の御礼を申し上げます「ありがとう。」

まちづくり委員会 理事委員長 齊藤 雄一郎



本年度「学ぶ!撮る!考える!親子チャレンジオリエンタリング」、「うらじゃ」、「うらじゃ開催支援広告募集事業」、「さよなら例会」の4事業を実施しました。「学ぶ!撮る!考える!親子チャレンジオリエンタリング」では岡山における教育問題を捉え、親子を対象とした事業を行い、子どもたちに学ぶ事の楽しさを感じて頂きたいと考え活動しました。「うらじゃ」では委員会として担当させて頂き、愛され誇りとされる祭りに発展させたいと思いい第21回うらじゃ開催における支援を行いました。「うらじゃ開催支援広告募集事業」では協賛企業と「うらじゃ」を結びつける事により「うらじゃ」開催における資金支援活動を公益社団法人岡山青年会議所として行い、公益社団法人岡山青年会議所がうらじゃ開催に密接に関わっている事を対外にアピールする事が出来ました。「さよなら例会」では本年にて卒業される現役会員の皆様に青年会議所活動で経験し学んだ事を伝えて頂きました。最後になりますが、現役会員皆様にはまちづくり委員会の活動にご協力をお願い誠にありがとうございました。また、委員会のメンバーの皆様には1年間活動を共にして頂き、心から感謝を申し上げます。

渉外委員会 理事委員長 木道 茂樹



メンバーの皆さん、一年間渉外委員会の活動に対しまして、温かい励ましと、格別なるご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。本年度、渉外委員会には、16個の事業があり、果たしてこれだけの事業を全うできるのか、当初は一抹の不安がありました。しかし、鈴森理事長を中心に、岡山青年会議所メンバーが一丸となって、フルスロットルで挑めるように、委員会メンバー一同「ひとの喜びが自分の喜びである」を合言葉に、頑張り抜くことができました。まずは、委員会メンバーお互いの喜びが何であるかを考えてもらいました。一緒に活動する身近な委員会メンバーの為に、行動できなければ、岡山青年会議所メンバーの為に行動できないのです。私が委員会メンバーに伝えたのはこの事だけで、後は担当副委員長を中心に、本当によく考え、行動してくれました。一年間通じて感じた事は、何をしたかよりも、誰としたかの方が大事だと言う事です。青年会議所の事業は失敗が許されます。上手に事業を行おうとせずに、失敗を恐れず青年同士激しい議論を交わし、熱く語り合う時間、これこそが何よりの宝物だと気づきました。

拡大・広報委員会 理事委員長 浅原 晶子



拡大・広報委員会では会員拡大と広報活動に取り組んで参り、この1年間で多くの方にお会いすることが出来ました。新年賀詞交換会から拡大のアピールをさせて頂き、また会員拡大と岡山青年会議所の活動の認知を目的と致しましたセミナーを、4月と10月に開催させて頂きました。岡山青年会議所の特別会員にお越し頂き、経営論や地域活動、友情や自己成長などのご講演を頂きました。特別会員や現役メンバーには幾度も時間を頂戴し相談させて頂き、拡大に対しまして心強い大きなお力を頂いた事に切に感謝申し上げます。広報活動も委員会メンバーが事業や、また事業以外でも細かく現地に赴き、現地で感じたことをコメントにしてホームページやフェイスブック、また暖流で掲載と拡散をしたことで、多くの方に見て頂ける事が出来ました。その際にご協力頂いた皆様方には厚く御礼を申し上げます。多くの経験をさせて頂きました鈴森理事長、上神専務理事並びに李常任理事、そして1年間私を支えてくれました委員会メンバーの皆様、日頃よりご協力を頂きました特別会員とLOMメンバーの皆様には心から感謝を申し上げ活動報告とさせていただきます。ありがとうございました。

総務委員会 理事委員長 佐野 範一



鈴森理事長から総務委員会理事委員長という大役を仰せつかり、岡山青年会議所の運営について深く考えさせて頂いた一年間でした。事業では9月の現役会員・特別会員合同例会において、不可能と言われた特別会員出席者全員の現役時代を映像として製作しました。メンバーが一丸となって取り組むことで、不可能を可能にすることが出来ました。製作の過程で、多くの特別会員の方から協力を頂き、その絆の深さに感謝するとともに、我々も先輩の足跡に触れることで、多くの学び気づきを得ました。本次年度が交錯する予定段階から、メンバーは事業に対して逃げずに真摯に向き合ってくれました。そして、岡山青年会議所の要として理事会、事務局の運営と休むことなく活動してくれました。ただただ感謝の言葉しかありません。最後になりましたが、総務委員会の活動に対しご支援頂きました上神専務理事、李常任理事には感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。